

## 「不信の罪」 エズラ記 9～10 章

イスラエルの歴史を通してそうであったように、民は神様に忠実でなかったのに、神様は民に対して忠実でした。罪の意識は、彼らの心を砕き、神様へのより深い依存へと駆り立てるはずでした。

① 罪を嘆くことは、悔い改めた心の証拠です。(3、6 節)

詩篇 51 篇 1、17 節

② 神様は人々が不誠実であるにもかかわらず、憐れみ深いお方です。(8-9 節)

テモテへの手紙 第二 2 章 13 節

ローマ人への手紙 5 章 8～10 節

ローマ人への手紙 6 章 1～2 節

③ 悔い改めることは言葉だけでなく、行動です。(10 章)

ルカの福音書 3 章 8 節

コリント人への手紙 第二 7 章 10～11 節